



協働事業提案説明会ニュース



2006年3月21日開催
発行：大和市民活動課・玉川まちづくりハウス

2006年3月21日、大和市協働事業提案説明会が開かれました。これは、どういうものが協働事業にできるか、みんなで考えようという説明会です。はじめに実際に大和市の「新しい公共」の取り組みに関わっている河崎民子さん、大瀧昭徳さん、林泰義さんの3人の方にお話しをいただき、そのあと4つのグループに分かれて協働事業の提案を考えてみるという簡単なワークショップを行いました。

渡辺精子協働推進会議代表からのあいさつ

協働事業提案には市民側からの提案と行政側からの提案の2種類があります。どちらも新しい公共を目指すものです。今日はみなさんのお知恵を借りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局からのお願い

協働事業提案について3点、ご注意いただきたいポイントがあります。

① 提案の流れ

提案の流れは右図を参考にしてください。

② 提案についてのお願い

- ・ 提案の受付期間は2006年4月1日から5月19日です。
- ・ 提案をするには2種類の指定の書式にご記入いただきます(2種類のうち、登録用紙については、今までご登録いただいている方は必要ありません)。
- ・ 提案者のルールとして、6月11日の公開プレゼンテーションと7月23日の公開検討会には必ずご出席をお願いいたします。

③ 提案についてのご相談は下記の2カ所をお願いいたします。

*大和市役所市民活動課(協働推進会議事務局)

電話：046-260-5103 FAX：046-260-5138

E-mail:katudo@city.yamato.lg.jp

URL:<http://www.city.yamato.lg.jp/katudo/index.html>

住所：大和市中鶴間1-1-1

大和市協働事業提案 プロセス全体の流れ

2. 登録

3. 事前周知 [説明会 3/21]

4. 協働事業提案の募集 [4/1 ~ 5/19]

5. 公開プレゼンテーション [6/11]

6. 公開調整 [6/11 ~ 7/22]

7. 公開検討会 [7/23]

8. 協働推進会議提言

9. 市長の検討結果報告会 [8/下]

10. 事業実施に向けた個別協議

11. 事業実施

11. 事業評価、事業報告会

1. 事前相談

*大和市民活動センター

電話/FAX：046-260-2586

E-mail:yamato@ar.wakwak.com

URL:<http://park23.wakwak.com/~youkoso/index.html>

住所：大和市中央1-5-1

大和市協働推進会議委員 河崎民子さんのお話



自分はいまこれ 30 年ほど市民活動をしています。この「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」をつくるところから関わっていき、現在も推進会議委員をしています。今日はこの条例の前文を使ってお話ししていきたいと思えます。

「新しい公共」という言葉は今では多くの自治体や国でも文章化されていますが、この条例をつくっているときはまだ理解しにくい言葉でした。この前文は新しい公共という未来を示した文章であるともいえます。

前文の中に「私たちは長い間、行政だけに委^{ゆだ}ねてきました」という一文がありますが、行政だけが市民に「サービス」を提供するという時代は過去のもので、いまや国も自治体も借金だらけ、それに加え市民のニーズが多様化し、行政の画一的なサービスは限界となり、もっと柔軟なサービスを市民自身が担う時代となりました。自分が欲しいサービスを口にできる時代、それにあった多様なサービスがある社会となったわけです。

また前文の中に「社会資源」という言葉がありますが、一般に社会資源というと「人・物・金」、行政の側から見れば施設や資金（税金）の提供ということですが、逆に市民の側から見たらどうでしょう。今実際に活動している市民活動家の中には自宅を事務所にしている方や、自家用車で送迎ボランティアをしている方もたくさんいます。自分がどのような社会資源を提供できるかからスタートし、それが協働事業へと結びつくのではないのでしょうか。

前文の最後に「一人ひとりの『私』を大切にしながら」という一文があります。あるときはサービスを必要としている私がいて、一方、社会資源を提供する私がいる。自分も社会に参加することで、社会からも大切にされる“私”になれる。前文にはそのような意味が込められています。

渋谷西地区 13 自治会・地区社協 大瀧昭徳さんのお話



自分は 23 年市民活動をしています。渋谷西地区の地域活動はエリア型の中にテーマ型の活動が 4 つ入っているような形となっています。現状の課題は組織の縦割り・連携不足の解消、広域課題への対応、人材育成・確保、拠点の設置などで、平成 17 年より大和市が進める市民自治区とやまと地域の底力事業に取り組んでいます。このことを契機に渋谷西地区の活動が活発化したことで行政に感謝しています。

平成 17 年の事業概要は①安全②環境③福祉と健康④市民自治区構築検討事業の 4 点で、①安全事業では、防犯、防災、学童など目的別マップづくりや防犯パトロールの充実、②環境事業では、7 月からのごみの有料化を視野に入れての講習会、清掃などの環境美化、③福祉と健康事業では、中学生との交流会、保健師による健康相談、栄養士による食育指導などの事業を行いました。

事業を進める体制としては、市民のニーズをアンケート調査した結果、興味があると答えた分野がほぼ上記 3 事業にほぼ均等に分かれたので、やりたいことに参加してもらおうという形になっています。

これから進めたいこととしてまず、力を入れたいのは財源の確保と事務局の設置（これは行政の資金面の支援をお願いしたい）、事業取り組みへ向けては NPO に比べボランティア団体はスキルがないのが課題なので、もっと勉強しないといけない。そして内なる力を引き出すエンパワーメントで明るい街づくりを目指します。

協働事業に必要なものは組織の縦割り構造を取り払い、横断的な活動サイクルを向上させることではないのでしょうか。

大和市協働推進会議委員

林泰義さんのお話



私は大和市の市民ではありませんが、まちづくりの学識者として推進会議委員になっています。先ほどもお話に出ましたが「協働事業」も「新しい公共」もわかりにくい。しかし新しいことが展開するときには少しわかりにくい方が成功する、という考えもあります。「まちづくりなんか定義するな！すべてがまちづくりだ」という言葉もあるくらいで、新しい公共も、実は現場で活動する市民から起こってきた考えなのです。

「行政の常識＝市民の非常識」というくらい、両者の常識は違います。協働事業とは、行政側も変わっていくチャンスなのです。市民の側は自分の思いをどううまく伝えていくかを工夫しなければならない。大和市の仕組みもまだ始まってから3、4年で発展途上です。市民からのアンケートで「わかりにくい」「あいまいだ」という声が聞かれますが、これは一緒につくっていく作業だと考えていただきたい。そもそもの企画のところから一緒に考えたいというのは、市民の側からの希望でもあります。

事例を2つあげて考えましょう。1つは平成17年度の提案事業「“ふくしの手 全員集合”」です。これは福祉総務課からの行政提案で、行政側から提案して一般市民を募るとするのは一般の自治体では先進的な試みです。そもそもは前年にNPO法人「ワーカーズ・コレクティブ想」が福祉の知恵を集めるプロセスを共有したいという提案をしたのですが、提案が具体的でないという理由で実現しなかった。しかしこれは見過ごせない大事な考え方だということで、市民からの思いを別なカタチで行政が協働事業化したという、非常にうまくいった例です。

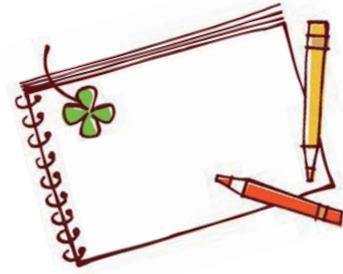
もう一つの事例は平成16年度の市民側からの提案事業「悪い大人に負けないための法律講座」です。これは行政書士の方が自分たちの専門知識を生かして学校で子どもたちに講演をしたいと教育委員会に提案したのですが、教育委員会側は「各学校の校長の判断なのでこちらでは返答できない」との答えで、結局各学校へ教育委員会指導室の方から情報を流し個別に対応することで実現しました。それならばはじめから「情報を流すところはお手伝いできます」と返答すればよいのであって、こういう協働でのマナーがまだ行政側もわかっていないところがあります。

市民アンケートでも「行政のアドバイスは不足している」とか「サービス精神に欠けている」「官の態度はえらそうだ」等の意見が聞かれますが、これからの協働のマナーの問題は行政側もきちんと考えなければならない。市民側もうまく考えながらやりましょう。



考えてみよう協働のかたちワークショップ ～協働事業提案書をつくってみよう～

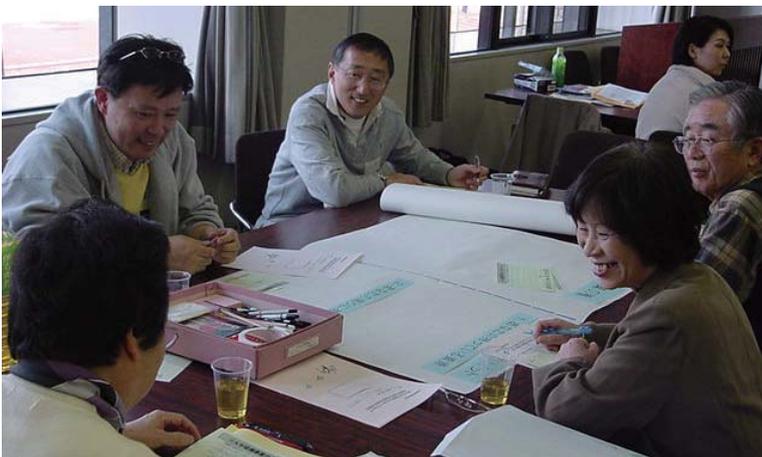
● 4つのグループに分かれて実際に協働事業提案書をつくってみました。
まず、それぞれが日頃気になる行政サービス、もっと広がってほしい市民活動を思い浮かべて「こんな協働事業があったらいいな」をカードに書き出してグループ内で発表しました。



● その後、協働事業のアイデアをみて、自分が紹介できる役立ちそうな社会資源を書き出しました。

協働事業の種	社会資源ポストイット
	<p>1. あなたの持っている社会資源</p>
	<p>2. あなたの周りにある社会資源</p>

● 協働事業の種と社会資源ポストイットの組み合わせを考え、どれか1つ協働事業の種を選び、グループで協働事業提案書をまとめて発表しました。



◆ 1 グループ ◆

協働事業の種

- ・ 子どもへの犯罪抑止力に向けた子どもへの教育の内容が見えない。大人まかせのところがある教育委員会、学校の情報対策が見えない。子どもを巻き込んだ子どもへの教育、防犯意識の力をつける。
- ・ 自家用車を使わないで、自転車や乗合自動車でもっと自由に市内を移動できるようになると良い。
- ・ これからますます進む高齢化の中で、ボランティア活動も（盛んに）必要になってくると思います。地域の中で在宅ケア、ボランティア制度に点数制の導入があったらと思います。型としては日赤の献血の方法、それを行政の中に窓口を持っていたらと思います。
- ・ 勤め人、（外出できない人）にやさしい行政窓口。
- ・ 犬の保育園・・・一時預かり、散歩代行など。老犬保健施設。人間に対してあるサービスを犬のために・・・。

社会資源ポストイット

2. あなたの周りにある社会資源

- ・ 大和市の新しい地域通貨（ラブ）の仕組みを知っているヨ。さわやか財団がコーチをして、地域内での助け合いの仕組みを実現するサポートをしてくれます。

協働事業の提案書

事業名	“つ良い子”を育てるプログラム
事業の内容	子どもの危機管理能力を高め、大人に守ってもらわなくても自分を守ることのできる子どもを増やす
役立ちそうな社会資源	専門的知識・技能（CAP、ガーディアンエンジェルスなど）／学校、親、地域（の人）
市に期待すること	資金、出すぎないこと（行政の常識を捨てること）
事業の効果	犯罪抑止力の向上 子どもを守る大人（資源）のネットワーク

◆ 2 グループ ◆

協働事業の種

A ものづくりの事業があってもよい。これまでの提案は、ほとんどがサービス関連であるが、ごみ処理、水処理などに関連して、有用な物品を生み出す事業も考えられる。(技術的困難性も伴うが)

B 道を通るたび気になるごみ。ごみのない町にしたい。環境の美化。

C 昭和30年代(1970)にあった子どものための原っぱ。その復権。余計なお世話の「ふれあいセンター」と称するような建物をつくらないというのが絶対条件。余計な大人の口出しをしない。文句と要望だけに行く「市民」との対応でエネルギーを消耗しないこと。頼りになる市民のネット構築。

D 市民活動家が各々独立して動くのではなく、お互いから学ぶことで新たな発想を生む仕組みが欲しい。→市民がみんな「先生」になろう！同時にみんなが「生徒」

E 後継者のいない、あるいは耕す人がいない農家の人とともに耕作をして、なんとか農地を維持する活動。

F 行政の常識＝市民が見た非常識＝100の寸劇づくり

社会資源ポストイット

1. あなたの持っている社会資源

- ・ A…生ごみの資源化開発 有機肥料など。
- ・ 朝の清掃タイムの設置。
- ・ 草刈り、枝おろし、ごみ拾い。「森」の保全10年
- ・ C…何もない子どもの広場のために“ひと肌”ぬげます。
- ・ 保育業界の動き・子どもの置かれている状況、子どもを取り巻くビジネス。
- ・ 本づくりのイロハ。編集
- ・ 健康体操の先生。
- ・ E…自宅前で野菜の販売を企画中です。
- ・ 農業が好きな人は大勢いると思う。
- ・ 食べることのできる野草→ノビル・ヨモギ・タンポポ。

2. あなたの周りにある社会資源

- ・ 自治会館の活用。
- ・ 閑な人の活用。
- ・ B…おもしろいごみ箱の設置。ディズニーランドで見ました。
- ・ B…誰でも小さな心がけで気軽に参加できるのでは？
- ・ B…セブンイレブンの方は駅前の掃除をしていました。
- ・ 水と緑課、市役所環境部の1セクション。
- ・ C…原っぱがつくれそうな場所の情報。
- ・ つるまの森大和市北部にある小田急沿いの林地。地権者と行政の間で保全契約がされている。
- ・ D…河崎民子さん。
- ・ D…北島滋穂さん。
- ・ D…野遊びのプロ集団ろぜっとわーくす。
- ・ E…農業体験ボランティアグループの結成。
- ・ E…生活クラブ生協の面々が、腕がありそう。
- ・ E…農家(畑)で食事会をしている団体(なないろ畑さん)。
- ・ 農業に興味のある若者。

協働事業の提案書

事業名	風の農場～みんなで作ってみんなで食べようマイベジ事業
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農場の面白マネージャーを募集 ・ 有機農法にして、地元生産物を還元 ・ 農業に興味のある人に農業を体験できる場をつくる。 ・ 農地の活用に閑な(時間のある)人を募集体験ツアー ・ あまり手がかからない作物を農家の人の教えを受けながら、一年間耕作を続ける ・ 普段食べている野菜の種から収穫まで関われる(参加できる)農場。 ・ 食育と農家の連携。自分で耕してみよう。調理方法も学ぶ。地産地消。 ・ 販売店を盛り上げる。お祭り感覚で。 ・ 有休地を子どもの遊び場に
役立ちそうな社会資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団塊の世代の男女。 ・ 農家廃業する方々から農業資源募集。 ・ 風の農場ファンด์をつくろう運動! ・ 子ども広場もつくって親は畑も!
市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地色別マップづくり。 ・ 事業のPR ・ 農業マップの作成。 ・ 市民に知ってもらおう工夫。 ・ 特区扱い。窮屈な法規制をクリア。 ・ 農家との協定などの窓口業務。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 究極のトレーサビリティここにあり。 ・ 高くても安心できる野菜が評価される。 ・ 農業に希望が持てる仕組みができるかも ・ 太陽、雨、風、緑、空気のありがたさ。 ・ 農地の保全→地球温暖化の抑止。 ・ 「いただきます」、「ごちそうさま」の実感。

◆ 3 グループ ◆

協働事業の種

- ・ 人財・人材育成事業 「“ふくしの手 全員集合”」はこういった広がりをもたせていくのか？
- ・ ボランティアのワンストップステーション。
- ・ 地域ごとの活動分野に役所の方が出向き学習会を開く。
- ・ 行政とのコミュニケーションがとれないので各地域ごとにテーマを決め、市民と行政の協働でなにか形となるシステム作り。
- ・ 年何回？行政と市民とのパーティーを開く。
- ・ 文化活動への支援の組織。文化ホールの建設へ向けての協働事業。ボランティア登録団体の情報ネットワークの一元化。市民参加手続きの組織化。
- ・ 市民活動をしている方の話を聞く。(市民でもなにも知らない人がいる。市民レベルを上げる。)
- ・ コミュニティーセンター、学習センターなどの他に地域の茶飲み場を作りたい。使用していない時間のスペースの貸し出し。

社会資源ポストイット

協働事業の提案書

事業名	ペット99	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペットの世話（ペットだけが残されたとき） ・ 病気になった独居の方の犬の散歩をしてくれるような助け合いサービス。（ペットの世話ができなくなった場合） 	
役立ちそうな社会資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペット好きな人 ・ 散歩仲間 ・ 自治会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペットショップ ・ 保険 ・ 場所
市に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信、情報収集、ネットワーク化 ・ 医療健康課 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマネージャー（情報源） ・ 大学 ・ 獣医
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションがはかれる。 ・ 大きなお世話の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民意識の向上。 ・ 環境汚染の防止。

◆ 4 グループ ◆

協働事業の種

- ・ 老化予防のためにもこれから増える退職してもなお元気な人々が有意義に生活していけるような楽しい生活エンジョイクラブ。
- ・ 病気になっている幼児をかかえ勤めをどうしても休めないときの施設。
- ・ 災害時に高層建築に生活している高齢者、子ども、寝たきりの病人、障害者をどのように救出するか。また誘導など行政と住民、管理業者との協働で訓練、指導の講習会を開催したい。
- ・ いつでも子どもを半日くらい預かってもらえる安心できるサービス。
- ・ 保健福祉センターの倉庫管理。私の団体も車イスやストレッチャーを置かせてもらっているが、いつも出そうとすると入口附近のものをどけるのに手間暇がかかる。管理をNPO等に任せては。
- ・ お悩みよろず相談事業。窓口一つ（相談内容聞き取り）→行政担当課、NPO（活動）、NPO（心理カウンセリング）、市民活動。
- ・ 国際理解を推進するための（事業発展もシェアに入れた）シェアハウスのコミュニティーづくり。B・Bスタイルのホテル、シェアハウス、カフェ、レセプション会場、シネマハウス。
- ・ 無臭、交換容易な介護用パンツ。生ごみ、植物性廃棄物の肥料、土壌化。雨樋に落葉の入らない雨樋カバー。

社会資源ポストイット

協働事業の提案書

事業名	生ごみの資源化事業・コンポスト（生ごみを肥料化・土壌化したもの）回収活用事業
事業の内容	・ 生ごみを肥料化・土壌化しても、マンション等では有効活用できない。 土壌化したコンポストを「資源の日」にカーテンを設置して回収し、市民農園や必要とする人が活用できる循環型社会を創る。
役立ちそうな社会資源	・ 市民が所有するコンポスターと生ごみ。 ・ 市民一人ひとりの意識。
市に期待すること	・ 資源の日に回収するシステムを作る。 ・ 広報課 ・ 活用する人へのPR ・ 環境総務課 ・ 企画政策課
事業の効果	・ 焼却ごみの減少→地球環境の保全と環境教育の推進。 ・ 農産物の有機栽培の推進。 ・ 収集業務の削減。